

■実践事例3 【知的障がい】小学校・第2学年（Cさん）

日常生活動作の獲得や主体的な生活の実現に向け、小集団を構成しながら手指機能を高めることを目指した自立活動の指導

1 指導内容を設定するまで

実態把握



学級担任

Cさんは、知的障がいがあり、小学校第1学年から特別支援学級に在籍しています。学習した内容の定着に時間は掛かりますが、一度身に付けたことは習慣化できるよさがあります。

課題だけではなく、良い点にも着目することは大切ですね。
では、**コミュニケーションの様子**はどうでしょうか？



特セン所員



言葉の発達に遅れがあり、表現が乏しいものの、気持ちや考えを自分から伝えることができます。また、視覚的な情報を用いたりかみ砕いて説明したりすれば理解することができます。

実態に応じて指導を工夫している点が素晴らしいですね。
対人関係や身体の動きはどうですか？



人と関わるのが好きで友達と仲良くできますが、集団活動では、周囲からやや遅れて行動してしまうことが多いです。



運動面は、体を動かすことが好きですが、やや体の動かし方がぎこちないことが気になります。そういえば、着替えの時にボタンの着脱に時間が掛かっていました。

先生が**一緒に学習したり、遊んだりする中で、Cさんのよさや困難さを把握**している点が素晴らしいですね。
周囲から遅れてしまうというのはどのような状況ですか？



Cさんは、給食当番や授業の片付けの際に周囲から遅れてしまうことが多いです。また、日常的に支援を受ける場面が多いためか、自分から行動することが少ないことが課題となっています。

なるほど。主体的に取り組む意欲がCさんの指導のポイントになりそうですね。では、続いてCさんの**困難さの背景**にあることについて考えてみましょう。



課題の整理

目標の設定



給食当番に遅れるのは、ひもを結んだり、エプロンをするのに時間が掛かったりしているからだと思います。図工もはさみを使うことなどが苦手なので、手先の不器用さが背景にあるのではないのでしょうか。

なるほど。自立活動の指導で手指の巧緻性を高めることで、Cさんの主体性を高め、自信につなげることができそうですね。



項目の選定



手指の巧緻性が中心的な課題なので、「身体の動き(3)(5)」が主たる区分に当たると考えます。



また、自信が持てず、主体的な行動が課題となっているので、「心理的な安定(3)」や「人間関係の形成(3)」を関連付けて、達成感を感じながら自信を持てるよう指導をしていきたいです。

そうですね。指導目標を達成するためには、**課題相互の関連を検討**し、必要な項目を選定して指導することが大切です。



指導内容の設定



身に付けたことが生活で生かせるように、生活で使うスキルと関連させて巧緻性を高める課題を設定したいと考えますが、学級の中には同じように手指の巧緻性を課題としている児童もいます。



Cさんの特徴から、一人で取り組むよりも友達と一緒にの方が意欲的に取り組めることが多いので、小集団で行いたいのですが、自立活動を集団で行ってもよいのでしょうか。

確かに自立活動は、個別で指導することが多いですが、**指導目標を達成する上で効果的な場合は**、集団で指導することも考えられます。



なるほど。では、週に1回、集団で行う自立活動を設定し、個別の指導で身に付けたことを発揮したり、楽しみながら個々の力を高めたりできるよう工夫してみます。

意欲的に改善・克服する指導は大切なポイントです。



2 指導内容等の整理

情報収集	Cさんの障がいの状態や長所、課題等について情報収集（詳細は23ページ）					
実態把握	自立活動の区分に即した整理	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き
		生活のリズムが安定しており、身に付けた習慣は、しっかりと継続できる。	活動への意欲が持てないと無気力になってしまいがちだが、仲の良い友達と一緒にだと意欲的に取り組むことができる。	自分に自信が持てず、初めての活動や苦手な活動では周囲を頼ろうとすることが多い。 自分の係を理解しているが、取組に時間が掛かる。	場面を見て状況を理解することや自分で考えて行動することが苦手である。	体を動かす活動を好む。 手先を使った細かな活動が苦手で、ひもやエプロンを結ぶことが難しい。
課題の整理	・手指の巧緻性の困難さにより、取組に時間が掛かったり、係活動をやり遂げられなかったりすることが、本児童の自信のなさにつながっていることから手指機能の向上を図る必要がある。 ・活動に意欲が持てないと取組の継続が難しくなるため、意欲的に取り組める活動を設定し、達成感を味わうことができるようにしていく必要がある。					
目標の設定	・結ぶ、つまむ、めくる、回すなど、日常生活の技能に必要となる手指の巧緻性を高める。					
項目の選定	健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成 (2) 病気の状態の理解と生活管理 (3) 身体各部の状態の理解と養護 (4) 障害の特性の理解と生活環境の調整 (5) 健康状態の維持・改善	(1) 情緒の安定 (2) 状況の理解と変化への対応 (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲	(1) 他者とのかかわりの基礎 (2) 他者の意図や感情の理解 (3) 自己の理解と行動の調整 (4) 集団への参加の基礎	(1) 保有する感覚の活用 (2) 感覚や認知の特性についての理解と対応 (3) 感覚の補助及び代行手段の活用 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動 (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成	(1) 姿勢と運動・動作の基本的技能 (2) 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用 (3) 日常生活に必要な基本動作 (4) 身体の移動能力 (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行	(1) コミュニケーションの基礎的能力 (2) 言語の受容と表出 (3) 言語の形成と活用 (4) コミュニケーション手段の選択と活用 (5) 状況に応じたコミュニケーション
指導内容の設定	【心(3)、身(3)(5)、人(3)】		【心(3)、環(4)、人(4)】		【心(3)、コ(5)】	
	① 意欲的に取り組める環境の中で、手指機能高める課題に継続して取り組む。 ② 取組の成果を見える形で表すことにより、達成感を得る。		③ 友達の取り組む様子を見て学んだり、周囲の状況を見て空いているブースを選択したりする。		④ 分からない時や教えてほしい時に、自ら「教えてください」や「お願いします」と伝える。	

※赤枠に関する指導については、「3 指導の実際」を参照

3 指導の実際

◇ 指導内容①②に関する指導

学級全体で取り組む自立活動の指導

- (1) 様々な課題を会社や工場に見立てたブースを複数設定する。
- (2) 各ブースの課題は個別の指導計画の目標に応じて設定する。
※これまでの課題の例：帳合い、パソコン入力、トランプめくり 等
- (3) 各課題は、児童の実態に応じて難易度を複数設定する。
- (4) 各児童はブースを回り、教師の指示を聞いて各課題に取り組む。
- (5) 達成状況に応じて対価が与えられ、2か月に一回、学級で買い物ができる。

空いているブースを判断して並んだり、丁寧な言葉遣いでやり取りしたりするなど、Cさんが自己選択・自己決定したり、コミュニケーション力を高められる場面を意図的に設定する。



対価



お仕事頑張りシート



なまき



【ブース1「ひも結び会社」】



【ブース2「クリーニング会社」】



【ブース3「豆つかみ会社」】



【ブース4「組み立て会社」】

【指導のポイント】

- 小集団の指導を効果的に取り入れ、友達の間から学んだり、学習上・生活上の困難さを改善する意欲を高めたりすること。
- 課題を細分化し、段階的に指導することにより、児童の成功経験を豊富にするとともに、成果を可視化することにより達成感を持てるようにすること。
- 各教科等の指導や実際の生活場面と関連を図り、学んだことや身に付けたことが実際の生活に生かされるようにすること。

【指導の記録】[○…成果 ▲…課題]

(1) 児童の変容

- 継続して意欲的に取り組んだ結果、はちまきやエプロンを後ろ手で結ぶことができるようになり、集団活動に遅れずに参加したり、給食当番に間に合うようになったりした。自分でできることが増えたことで自信を持って行動できる場面が増えた。

(2) 指導の評価・改善

- ▲ できるようになったことを保護者と共有し、家庭においても身に付けた力を発揮する場を設定してもらうなどして、生活場面においても自信を持って取り組もうとする意欲を高めることが今後の課題である。